

「インド」をもっと身近に

Bringing India Closer to Japan



2025年5月19日

(株)ANA総合研究所 主席研究員 片桐常弥

技能実習制度や特定技能制度の活用、学

岸田総理より、日印国交樹立70周年の昨年に、多くの文化交流事業が行われたこと、最近日本による青年招へいプログラムも再開したことに言及し、**技能実習制度や特定技能制度の活用、学術交流や自治体間交流を更に促進していく旨を表明しました。**

両首脳は、インドにおける日本語教育を促進することで一致し、両国の人的交流、ビジネス交流の発展につながることへの期待を表明しました。岸田総理より、日本語教育に関する覚書が改訂されたことを歓迎しました。

岸田総理より、日本の有償資金協力によるインド工科大学（IIT）ハイデラバード校の大学施設建設が進捗していることに言及し、更なる教員や学生間の交流、インド人IT人材の日本企業での活躍などにつながることへの期待を表明しました。

また、両首脳は、インド人学生の日本への留学の増加につき検討していくこと、及び、2023年度を「日印観光交流年」として、観光交流を進めていくことで一致しました。モディ首相からは、留学生増加に向けて両首相自らが積極的に取り組む旨の発言がありました。

※外務省ホームページより

日インド人材交流、5万人創出 額賀議長、モディ首相面会

2024年8月2日 共同通信

【ニューデリー共同】インドを訪問中の衆院の額賀福志郎議長は1日、モディ首相と面会し、日印間の人材交流の推進を申し合わせた。留学や就職を通じ、今後5年間で5万人規模の交流を目指す。



額賀衆院議長、「インド北東部との人材交流を」 2025年5月6日 日本経済新聞

インド北東部は日本などの人々に近いモンゴロイド系住民が多く住み、食習慣も似ているといわれる。同州を初めて視察した額賀氏は「アッサム州などは人口も多い。日本人も親近感を持つはずだ」と語った。

今後は介護従事者や自動車のドライバーなど、より広い範囲の人材をインドから日本に受け入れることを目指す。

額賀氏はジャイシャンカル外相と会談し、両国の人材交流を活発化させることで合意。モディ氏には早期に訪日してもらうことを要請した。

経済産業省は2024年度の補正予算で、日系企業の人材の採用や育成をインドで支援する予算を15億円程度計上した。



会談に臨む両首脳

(写真提供：内閣広報室)

菅前首相 インド首相と会談

2023年7月6日 NHK NEWS WEB

この中で菅氏は、両国の経済関係の強化に向けて、日本企業の投資環境の整備を進めることが重要だとして協力を求めました。

また、日本の新幹線技術が導入される高速鉄道の建設現場を5日に視察したことを踏まえ、早期の開業を目指して両国で協力していくことを確認しました。さらに両氏は、**双方の国を訪れる旅行者や「特定技能制度」によるインドからの人材の受け入れを含めた人的交流の拡大を目指す**ことで一致しました。



技能実習制度、特定技能の状況

- ①日本経済に外国人技能実習生・特定技能は不可欠
- ②2019年末までに日本は40万人以上の外国人技能実習生を受け入れ、半分以上はベトナムから、他にフィリピン・インドネシア・中国・ミャンマー・カンボジア等から受け入れ、インドからは223人のみ ※在インド日本国大使館からヒアリング

以下、複数の大手監理団体からヒアリング

- ③ベトナム人技能実習生の失踪、ブローカーの暗躍等、ネガティブな報道やSNS拡散により、外国人技能実習制度のイメージダウン
- ④ベトナム人は、3K業種(介護、建設、機械・金属、農業、漁業等)を敬遠、人材の高騰、→代替国選定の準備が必要
- ⑤上述したASEAN諸国に移転してきているも、これらの国々はいずれ、人材が枯渇するのでは
- ⑥ミャンマーの政権変更による将来への不安

■外国人受入人数 ※2024年12月末まで 出入国在留管理庁データより
・技能実習生 45.6万人 ・特定技能1号 28.3万人 ・特定技能2号 832人

内、インドから

・技能実習生 1272人 ・特定技能 36人 ※2024年2月まで(NSDCからのヒアリング)

【参考】インドにおける技能実習制度・特定技能の現況

- ①2017年10月、技能実習制度の協力覚書
- ②2018年7月、技能実習生の第1期生が初めて訪日
- ③2021年1月、日印の特定技能の提携は2021年1月
- ④2022年2月、介護試験が開始されたが、受験者伸び悩み
- ⑤2022年3月、農業試験が開始
- ⑥2023年10月、宿泊業試験実施説明会開催(デリーにて)
- ⑦2023年12月、建設業試験が開始
- ⑧2024年3月、宿泊業試験開始
- ⑨2025年3月、自動車運送業試験開始

インド

■現状

- ・2023年 世界最大の人口
- ・人口ボーナス
- ・若年層の就職難
- ・世界中に人材を輩出
(高度人材からワーカーまで)

■性格・資質

- ・温厚、誠実、明るい
- ・高い語学力
(日本語習得能力の速さ)
- ・親日、アニメ好き
- ・日本人と似た顔つき、食習慣(北東部)

■日本に対するイメージ

- ・良好な二国間関係
- ・安全で親切な国
- ・町がきれい

認識のずれ

日本

■現状

- ・深刻な人材難
- ・少子高齢化
(特に地方を中心に若手人材不足)
- ・3K業種の人材離れ

■インドのイメージ

- ・そもそもインドについてあまり知らない
- ・インド人=IT系高度人材
(ワーカーの存在をあまり知らない)
- ・色黒、強面
- ・ターバン
- ・食習慣の違い(カレー、ベジタリアン)
- ・多宗教、カースト

■送出し機関

- ・Activeな機関が少なく未成熟
- ・他国への送出しがメリット大
- ・日本を知らない
- ・ブローカーの存在なし
(宣伝不足)

■監理団体・雇用主

- ・インドおよびインド人の知識不足
(アドバンテージやポテンシャル)
- ・実績のある他国からの受入れで十分
(新規は面倒)

インド地図



- ・北東7州
- ・シッキム州
- ・ダージリン
- (西ベンガル州)

地図出所: 外務省

マニプル州 インパールにて
2021年11月1日

ナガランド州 コヒマ・ディマプルにて
2023年12月5-6日

宿泊 技能実習・特定技能 のセミナーを行いました！



北東インドの人財も
よろしくお願いします～！

～北東インド紹介～



お米が主食



インド版納豆
も存在する？



牛肉や豚肉料理
が人気！



おもてなし精神！



日本人と同じ
モンゴロイド系
の顔立ち！



ネパール・ブータン・バングラディッシュ・中国の国境
ダーズリンにてセミナー開催！

2021年12月20日



12月20日(月)、ARMSシリグリセンター主催のセミナーをインドのダーズリンにて行いました。セミナーにはANAインド総代表の片桐様を始め、ダーズリンのTV局、新聞社等、多数メディアが駆けつけ、日本からもZOOMにてダーズリン出身の介護実習生とリアルタイムで繋がりました。主に技能実習制度に関する説明を行い、大学生を中心とした参加者のほとんどは



日本での3年間の実習に関心を持ってくださいました。今後はダーズリンを含め、働き者の多い北東インド地域の人材を中心に日本へ送り出していきたいと思っております！

H&A ARMS株式会社
 日本: 0566-70-7506
 インド: +91-9958887141



ダーズリンテレビの取材

※データ&写真提供: 送り出し機関ARMS

NSDC International 訪問 ※全員が北東州出身、看護師資格あり、日本での特定技能(介護)希望

2023年2月2日

2023年6月20日



福井県・熊本県・高知県で、初のインド人技能実習生を受入れ

※出展: 福井テレビ



インド人介護スタッフ 奮闘中
特報 勝山市の高齢者施設

2022.10.12 18:55
「介護で夢をかなえたい」インド人女性15人が日々奮闘 勝山市高齢者施設さくら荘

インドからは初の農業技能実習生2人が知事訪問

07月12日 18時16分

2022. 7. 12 ※出展: NHKウマロク



新型コロナウイルスの水際対策の緩和を受け、熊本県でははじめてとなるインド出身の農業技能実習生をこのほど五名市の農業法人が受け入れ12日、実習生らが県庁を訪れて蒲島知事と面会しました。

県庁を訪れたのは、インド出身のヨグendra・プラタップ・シンさん(22)とポバット・シャハディウ・スリサットさん(22)の男性2人です。

2人は12日、蒲島知事と面会し、ヨグendraさんは、「インドに帰ってから学んだ技術を使いたい」と述べました。

また、ポバットさんは、「インドでは家族でサトウキビを作っています。熊本のミニトマトは美味しいです」と話しました。

これに対し、知事は「熊本で多くの農業技術を身につけ、将来はインドと熊本の農業のパートナーとして活躍してほしい」と激励しました。

※出展: 高知新聞



日本に向けて2日に出発したヴェンカタサミー・ビグネッシュさん(中央)＝首都ニューデリー(全日本空輸提供)

2023年3月3日

■日本旅館協会及び全旅連青年部へのアプローチ

- ① 将来、人材不足が予想される日本旅館協会・全旅連青年部へのインド人材の紹介
 - ② 宿泊業技能試験センターと意見交換によるインドでの「特定技能試験」開催の検討
- ・インドの大手送り出し機関から日本旅館協会幹部及び宿泊業技能試験センターへ
インド人材紹介のオンライン会議（4回）を開催 ※2021年11月15-16日、片桐が主催



山形県初のインド人宿泊業
特定技能生・キランさん
天童温泉滝の湯ホテルで受け入れ
2024年12月

大手送り出し機関4社からインド人材を説明

- ・ NAVIS ・ ARMS
 - ・ Nihon Edutech ・ HINODE
- 協力：在印日本国大使館

プレゼンテーション

- ・ 日本旅館協会、全旅連青年部幹部
- ・ 宿泊業技能試験センター

【オブザーバー参加】

- ・ JICA・国際交流基金
- ・ メディア(NHK, 共同通信社)

2022.6.13-6.17インド視察

(主催: 片桐、協力: 在印日本大使館)

- ・ 送り出し機関ホテル専門学校訪問
- ・ インド人実習生候補者とのインタラクション
- ・ 好評につき、一部は受入契約開始
- ・ **2023年7月、宿泊業4団体と共同でのインド人材セミナー開催**
- ・ **2023年10月、特定技能試験開催説明会**
- ・ **2024年3月、インドで特定技能試験開催**





THE DAILY NNA

KYODO NEWS GROUP

www.nna.jp

インド版

NNA SINGAPORE PTE. LTD.

10 Anson Road, #14-08A International Plaza, Singapore 079903
Tel : 65-6738-3333 E-mail : sales_in@nna.asia

KDN PP 11802/03/2011 (029362) MCI (P) 095/03/2022

実習生送り出し、日印に課題 介護人材を日本へ (下)

人手不足が慢性化する日本の介護の現場にとって、世界最大とされるインドの人口は魅力だ。ただインドは、日本への技能実習生の送り出しでは他国に後れを取っている。取材を通じて、インドでの送り出し機関の少なさや、日本側の受け入れ制度の厳しさといった課題が見えてきた。【榎田真奈】



送り出し機関では出国前に介護を各分野の知識や実技、日本語の教育を行う (NAVIS提供)

日本では外国人を採用している介護施設はまだ少ない。その中でも、インド人は特に少数派だ。2022年6月時点で日本に在留する技能実習生の総数は32万7,000人余りだが、このうちインドから受け入れている実習生は300人余りに過ぎない。国別に見ると、ベトナム、インドネシア、中国が上位を占める。

同は認められない。

人材確保が困難な産業で、一定の技能や専門性を持った外国人の受け入れを目的とする「特定技能制度」でも、介護分野が対象となる「特定技能1号」の在留資格では家族の帯同が認められていない。

また、日本の賃金は諸外国と比べて上昇幅が小さく、給料面でも魅力が薄れている。中国など、賃金の上昇によってすでに技能実習生の採用が難しくなっている国もある。

インドが少ない要因について、技能実習生の送り出しを推進する全日本空輸 (ANA) の片桐常弥・インド総代表は「送り出し機関の数が少なく、業界が未成熟」と指摘する。

インド政府と民間の共同出資会社で技能実習制度を管轄する全国技能開発公社 (NSDC) によると、インドの送り出し機関は23年1月時点で29社。数百家あるベトナムと比べてかなり少ない。22社とミーティングを実施したANAの片桐氏によると、実際に送り出した実績があるのは6~7社にとどまっている。

インドでは、送り出し機関と実習生を仲介するブローカーが存在しないことも、送り出しが進んでいない一因だ。ブローカーは、積極的に送り出しの営業活動を担う側面があるためだ。一方で悪質なブローカーが存在しないため、市場の透明性が高いというプラスの側面もある。NSDCの幹部は、「われわれは送り出し機関と実習生の間に入って料金を取ることを認めていない」と話した。

インドからの送り出しは、18年7月に始まった。日本

現場がインド人材を確保する道筋は見えた。今後優秀な人材の採用を加速させるためには、家族帯同を可能にするなど制度面での改良も求められるだろう。

ANAの片桐氏は「日本ではインドについての知識が不足している。技能実習生の送り出しは日印の人的交流の拡大につながる。セミナーや視察を通じ、人口ボーナス期にあるインドは人材が豊富で、介護分野などでも能力の高い人材を採用できる潜在性が高いことを周知していきたい」と話した。



THE DAILY NNA

KYODO NEWS GROUP

www.nna.jp

インド版

NNA SINGAPORE PTE. LTD.

10 Anson Road, #14-08A International Plaza, Singapore 079903
Tel : 65-6738-3333 E-mail : sales_in@nna.asia

KDN PP 11802/03/2011 (029362) MCI (P) 095/03/2022

技能実習生が北海道の旅館へ 宿泊業に人材、来年から特定技能も

日本に向かう宿泊業の技能実習生2人が20日、インドの首都ニューデリーの空港を飛び立った。入国後の研修を受けた後、来月から北海道の登別温泉の旅館で働き実践的な業務を学ぶ。日本の宿泊業は人手不足が深刻化し、外国人材の受け入れ加速が求められている状況だ。来年からはインドでの宿泊分野の特定技能試験が始まり、インドからの人材の受け入れが本格化しそうだ。



インドから宿泊業の技能実習生として渡航したウニンングラ・ジャジョさん (左から3人目) とエズン・マロニさん (左から4人目) =20日、首都ニューデリー (全日本空輸提供)

ニューデリーの空港を20日、宿泊業の技能実習生2人が日本に向けて飛び立った。インドからの宿泊分野での技能実習生の渡航は極めて珍しいケース。来月21日から登別温泉の旅館で働き、技能を身に付ける。まずは旅館のレストランで、サーバースタッフを担当する予定だ。

渡航した2人はどちらも、日本人に容姿が近い住民が多く暮らすインド北東部出身。ウニンングラ・ジャジョさん (22、ナガララ州出身) は「技術の高い日本のホテル業界で働くことは、成長できる良い機会」と考え日本への渡航を決めた。日本では、「語学を上達させ、日本文化や料理を勉強したい」と目標を語る。

2人を受け入れる第一滝本館 (北海道登別市登別温泉町) では、正社員約130人の20%強を外国人が占めているが、技能実習生の受け入れは初めてだ。南智子社長が昨年6月にインドを視察。「現地の送り出し機関が信頼でき、学生のレベルが高い」と感じたことが、同社初

インドから渡航した技能実習生の業種内訳



※2023年9月時点

出所:全国技能開発公社(NSDC)

インドからの介護分野などの技能実習生の送り出しを推進してきた全日本空輸 (ANA) の片桐常弥・インド総代表は「宿泊業でもインド人材の需要がある」と断言する。

第一滝本館の南氏は「若い人が多い。20年以上は人口ボーナス期 (労働人口の多さが経済成長に有利に働く期間) が続く」とインドの人口構成を魅力に挙げる。さらに現場での視察でインド人材に対して「学習意欲が高く、

見込む。

現地での試験実施を決めた宿泊業技能試験センターの山口敦史理事は、「インド人材の受け入れは、優秀な人材を獲得する上で意義がある」と語る。インド人は英語ができるため、インバウンド (訪日客) が増える日本の宿泊業界で英語力を発揮できる。また、昨年6月の視察で学生と接し「日本語の習得ペースが速い」と感じたという。

19日に北部デリーで開催した試験の説明会には、送り出し機関や日本語学校など40社余りが参加し、熱心に説明に聞き入った。ダイブの調査によると、宿泊業は特定技能の12分野で最も人気があり、インド人材の渡航の加速に期待がかかる。

海外での宿泊分野の特定技能1号の技能測定試験は現在、フィリピン、インドネシア、ネパールの3カ国で開催している。インドでの2回目以降の日程は未定だが、継続的に開催する予定だ。

山形県の天童温泉で旅館を運営する滝の湯ホテル (山形県天童市) の社長でもある山口氏は、インドで開催された特定技能試験の合格者を2月以降、「2人ずつ採用したい」と話した。第一滝本館の南氏も「ぜひ採用したい」と前向きで、3~4人ずつ採用する意向を示した。

宿泊4団体 インド人材セミナー&マッチングイベント

2023年7月25日

日本旅館協会(大西雅之会長)は、日本ホテル協会と全日本ホテル連盟、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会と、東京都内で外国人人材の送り出し機関と登録支援機関、監理団体とのマッチング会を初めて開いた。

192の宿と人材事業社29社が参加。アジアの外国人の受け入れが活発化するなか、新たな有望市場としてインド人材の活用を促した。



セミナー「インドをもっと身近に」では、全日本空輸(ANA)の片桐常弥インド総代表が「インド人の優秀さを発信し日本で在留者を増やすことで、訪問需要増加を目指している」と語った。



2023年7月27日 出展:旬刊旅行新聞

日本飲食団体連合会勉強会 2023年7月26日

食団連主催 第2回勉強会

外国人材について

人手不足が加速する中、貴重な働き手となる外国人材に関する制度や現状について正しく理解し、それぞれが抱える外国人雇用の課題について意見交換を行い、解決の糸口を見つける。



GUEST SPEAKER



須永 新平氏

農林水産省
前 大臣官房新事業・食品産業部
外食・食文化課課長



片桐 常弥氏

全日本空輸株式会社
インド総代表 兼 デリー支店長

オンライン配信も同時開催

2023
7/26(水)
15:00~17:30

会場

ビジョンセンター有楽町301

日比谷駅直結/有楽町駅徒歩3分
<https://www.visioncenter.jp/yurakucho/>

プログラム

- 第1部
・外国人材に関する制度(特定技能、技能実習など)について
・外国人材の実態、課題、他業種の実例
・パネルディスカッション
- 第2部
・意見交換会 ※会場参加のみ

参加方法

① 会場参加

■参加費

【会員団体・オフィシャルパートナーの方:無料】
一般の方:1,000円/1名 ※当日会場にてお支払いください

■会場:ビジョンセンター有楽町301

お申し込みは
右記の二次元コード または 下記URLより
<https://forms.gle/f7DnnuDXtDk3sWh7>



② オンライン配信

■参加費:無料

※どなたでも参加可能です

■配信:Zoomウェビナー

お申し込みは
右記の二次元コード または 下記URLより
<https://qr.paps.jp/wEIR2>



Copyright©ANARI Tsuneya KATAGIRI

資料提供:食団連

■山形県老人福祉施設協議会主催の介護インド人材説明会開催 2022年10月28日



■山形県インド人材説明会終了後、介護施設経営者・関係者のインド視察 (2023年1月12日-14日) 主催: 片桐 / 協力: 在インド日本国大使館



送出し機関NAVIS訪問(ベンガルール)

マニプル大学(インパール)で大学生、ARMS実習生、関係者と意見交換



2024年10月、社会福祉法人「つるかめ」で山形県初のインド人介護特定技能生を受け入れ。写真は、伊藤社長とラクパさん
出展: NHKやままる

ANAグループ パートナー会社(グランドハンドリング人材)として
初めてインド人技能実習生を採用





日経ビジネス

2023 04.10
No.2186

第2特集
インドの人材を呼び込め
停滞ニッポンに活力

編集長インタビュー
現場データで事業を進化
奥村幹夫
SOMPOホールディングス社長

後継者選びの流儀

生き永らえる会社の覚悟

Copyright©ANARI Tsuneya KATAGIRI
出展：日経ビジネス



COLUMN
ANAのインド総代表も太鼓判

潜在能力の高い人材が豊富

「日印間の人材流動を活発化させれば、航空需要も拡大していく」。全日本空輸(ANA)の片桐常弥インド総代表はこう期待する。

ANAは現在、デリーとムンバイにそれぞれ直行便を運航している。2019年には南部チェンナイにも就航したが、現在は運休が続く。背景には国際的な人の往来を止めたコロナ禍がある。一時はチェンナイに限らず、デリー線、ムンバイ線も運休し、10年ほどインドに駐在する片桐氏の業務量は激減した。

空いた時間を利用し、片桐氏はインドから日本への送客をいかに増やすか考えを巡らせた。日印路線はインドに製造拠点などを持つ日本企業の出張需要に支えられ、日本発の需要に備っている。路線を再開させ、維持していくためには、今こそインド発の需要開拓に本気で取り組む必要がある。

ただ日本への旅行需要は「桜が見られる春に少し盛り上がる程度」

(片桐氏)。日本で働くインド人を増やし、「VFR (Visit Friends and Relatives)」と呼ばれる、友人や親族などの元を訪問する需要を創出していくという発想に至った。

片桐氏は技能実習生の「送り出し機関」の全てにコンタクトした。日本側の「監理団体」との結びつきが薄いと気付くと、大手の監理団体に連絡を取って送り出し機関を引き合わせた。人材不足に頭を抱える日本の介護事業者などにもアプローチし、インドの人材の魅力を直接アピールすることもある。



そんな片桐氏の目に映るインドの強みは「人口が多いため、潜在能力の高い人材が豊富」なこと。インドの言語と英語の両方を話せる人が多く、外国語の習得を苦にしない人が多い。さらに「北東インドの人々は文化などの面で日本と親和性があり、ホスピタリティ系の職種に向いている」とみる。

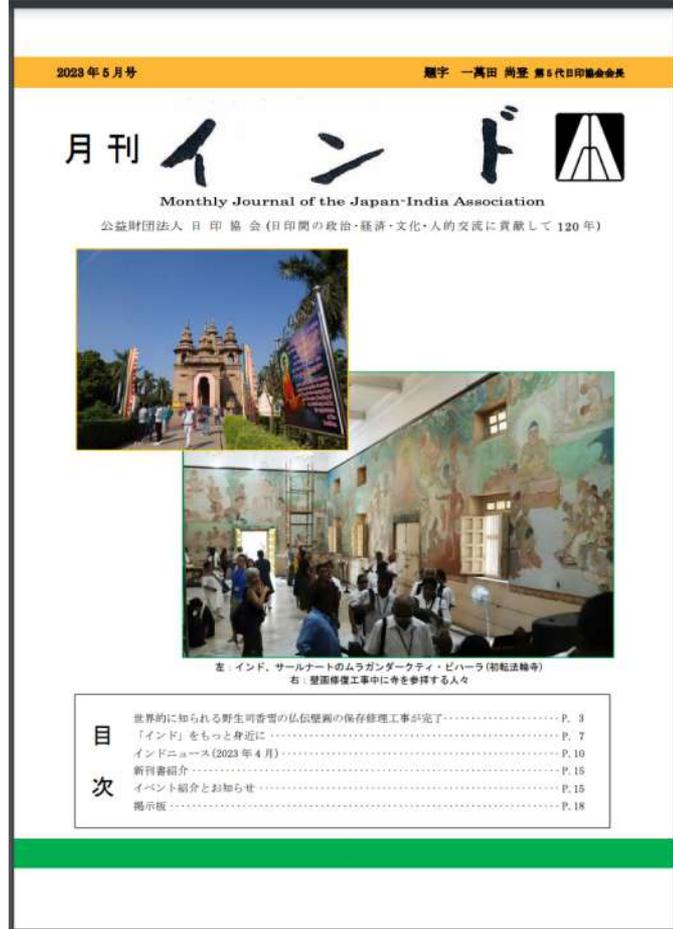
インドでは国営の航空大手だったエア・インディアが民間の大手財閥タタ・グループの傘下に入り、米ボーイングと欧州エアバスに計470機の航空機を発注。タタはシンガポール航空との合併として展開してきたビスタラとエア・インディアを合併させる方針だ。今後もインドの航空市場で商機が拡大するとの期待は大きい。

日印の人材交流が進むと、その恩恵を受ける業界は人材サービスや航空にはとどまらない。成長する南アジアの「大国」の勢いを取り込むことは、日本企業の成長戦略を考える上でも不可欠になる。

日印協会(*1)の月刊インド5月号 (2023年5月19日発行)に寄稿

(*1) 会長: 菅前総理

理事長: 齋木元外務事務次官



https://www.japan-india.com/files/view/articles_files_pdf_public/sr/c/4b6457afa7b0961055f3353d2c33f2c6.pdf

出展: 月刊インド

共同通信社の記事を全国紙で掲載

2023年8月14日-17日

出展: 山形新聞

開 業 日 報

(第三種郵便物認可)

インド人材 受け入れ後押し

働き手不足に悩む地方に向け、全日本空輸がインドの人材の魅力を発信している。国内受け入れを支援することで、世界最大の14億人が暮らすインドとの往来を増やし航空需要の拡大につなげようという試みだ。

新型コロナウイルスの影響で両国間の往来が激減した2020年、全日空の片桐常弥インド総代表が現地の技能実習生送り出し機関に接触を始めた。インパールやダーズリンといった地方都市を行脚し、制度の詳細や、日本で暮らすことの利点もアピールしている。

全日空がアプローチした自治体や団体

地方自治体 (全日空による)

山形県、和歌山県、鳥取県、高知県、福岡県、大分県、鹿児島県、松江市

業界団体など

日本旅館協会、日本飲食団体連合会、山形県老人福祉施設協議会、松江市社会福祉法人連絡会、宮崎経済同友会、鹿児島経済同友会

全日空、航空需要拡大狙い 本県などに売り込み

日本側への売り込みにも余念がない。本県や鹿児島県といった地方自治体や、宿泊、介護の業界団体などに幅広くアプローチ。片桐氏によれば、インドは親日的で日本語の習得能力の高い人材も多いことから、地方での受け入れが徐々に広がっているという。

日本とインドを結ぶ全日空の直行便はデリーとムンバイの2路線だけで、インド市場の伸びしろは大きい。片桐氏は「ビジネスや観光とは異なり、親族間の訪問は年間を通した航空需要の下支えになる」と話し、人材受け入れ拡大に期待を寄せている。

法務省によると、技能実習・特定技能両制度で在留する外国人は22年末に45万人余りで、このうちインドはわずか554人。労働力を確保したい日本の事業者の関心は高く、今年3月の日印首脳会談では両制度を活用したインド人材の流入増で合意している。

掲載紙

産経新聞、北海道新聞、山形新聞、秋田魁新報、河北新報、埼玉新聞、神奈川新聞、山梨日日新聞、静岡新聞、福井新聞、伊勢新聞、京都新聞、愛媛新聞、中国新聞、四国新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、沖縄タイムス、NNA、他

■ビジネス映像メディアPIVOTの Youtubeチャンネルに出演

2023年9月22日配信

出展: PIVOT



■ビジネス動画メディアReHacQの Youtubeチャンネルに出演

2024年3月5日、3月12日配信

出展: ReHacQ



ANA公式YouTubeチャンネル

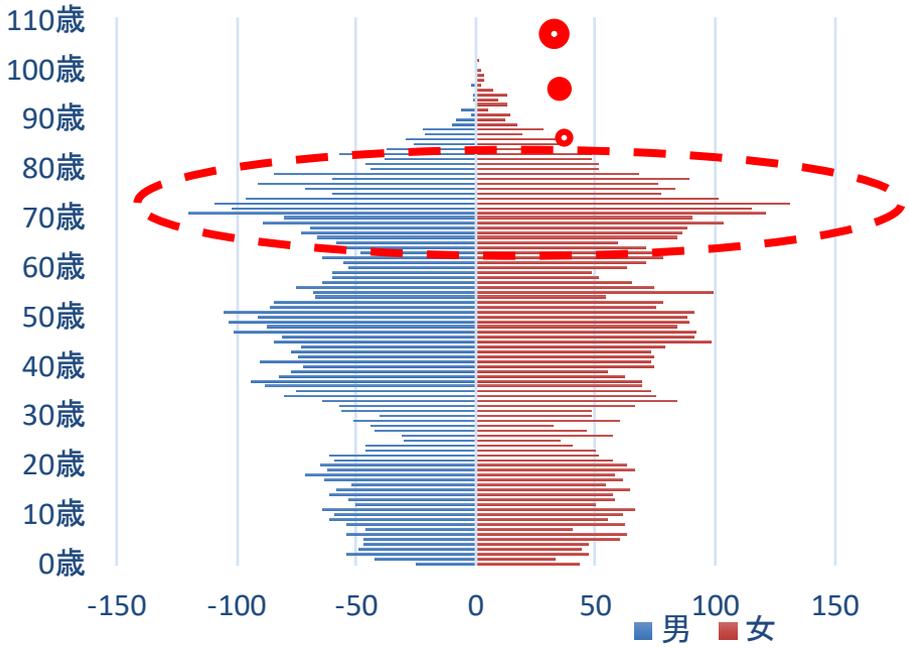
【密着ドキュメンタリー】
インドと日本の架け橋～ANA

<https://www.youtube.com/watch?v=yuirDQII-ss>



ANA機内番組で紹介
国際線2025年2月、3月
国内線2025年3月、4月

70代の比率が高い



出典: 横浜市統計情報ポータル

子育て世代のインド人の増加
霧ヶ丘だけで800人

日本人とインド人のコミュニティが
共生している

→リトルインディアの創出



Copyright©ANARI Tsuneya KATAGIRI



情報提供: 霧ヶ丘ぶらっとほーむ

■講演実績

1. 山形県老人福祉協議会（2022年10月28日）
2. 鹿児島経済同友会（2023年5月22日）
3. 宿泊業4団体 = 日本旅館協会 / 全旅連 / 日本ホテル協会 / 全日本ホテル連盟
インド人材セミナー&マッチングイベント（2023年7月25日）
4. 日本飲食団体連合会（2023年7月26日）
5. 島根県松江市社会福祉法人連絡会総会（2023年8月1日）
6. 宮崎経済同友会 / 宮崎県経営者協会（2023年8月23日）
7. 大分県アジアビジネス研究会（2023年12月22日）
8. 香川経済同友会 / 商工会（2024年2月20日）
9. 愛媛県中小企業団体中央会 - 経済4団体共催（2024年3月18日 ※オンライン）
10. インド日本商工会三木会（2024年4月25日）
11. 山口経済同友会（2024年5月13日）
12. 大阪商工会議所（2024年5月14日）
13. 山形県インド人材セミナー（2024年6月24日）
14. 山形経済同友会（2024年6月25日）
15. 世界人材会議（2024年10月12日） ※パネリストとして登壇
16. 日本商工会議所合同委員会（2024年10月16日）
17. 福島県インドセミナー（2024年10月17日）
18. 西大和学園高校インド修学旅行（2024年11月7日）
19. 山形銀行頭取インド視察団（2024年11月18日）
20. 茨城県インド介護人材セミナー（2024年12月26日 ※オンライン）
21. EYセミナー（2025年2月11日） ※パネリストとして登壇
22. 京都商工会議所（2025年2月25日）
23. 富山経済同友会（2025年2月26日）
24. 愛知県インドセミナー（2025年3月18日）
25. 米子商工会議所（2025年5月12日）

Thank you



LETS FIND MORE HUMAN RESOURCES FROM THE INDIA.

Thank you for your attention till end
ご清聴ありがとうございました

By Tsuneya KATAGIRI